

# 2010年度(2011年3月期) 第1四半期決算説明会



2010年7月30日  
大正製薬株式会社  
常務取締役 酒井 明人

# 2010年度第1四半期決算：概要



(億円)

	2009年度 1Q	2010年度 1Q	前年同期比増減	
売上高	636	646	+10	+2%
SMG*	386	399	+14	+4%
医薬事業	250	246	▲4	▲1%
営業利益	63	119	+57	+91%
経常利益	71	129	+59	+83%
四半期純利益	36	77	+41	+115%

注：数字は億円未満四捨五入

\* SMG：セルフメディケーション事業

# 2010年度第1四半期の概況(1)



## ・ セルフメディケーション事業(国内)

- 主要ブランドはほぼ計画どおり
  - ・ リポビタンシリーズ: 低カロリーのシリーズ品好調
  - ・ リアアップシリーズ: 引き続きリアアップX5が伸長
  - ・ パブロンシリーズ: 昨年の反動あるも微減にとどまる
- 昨年6月販売制度改正から1年経過  
影響は一巡、OTC医薬品業界をあげて  
市場拡大に取り組む

### <ご参考:市場の状況>

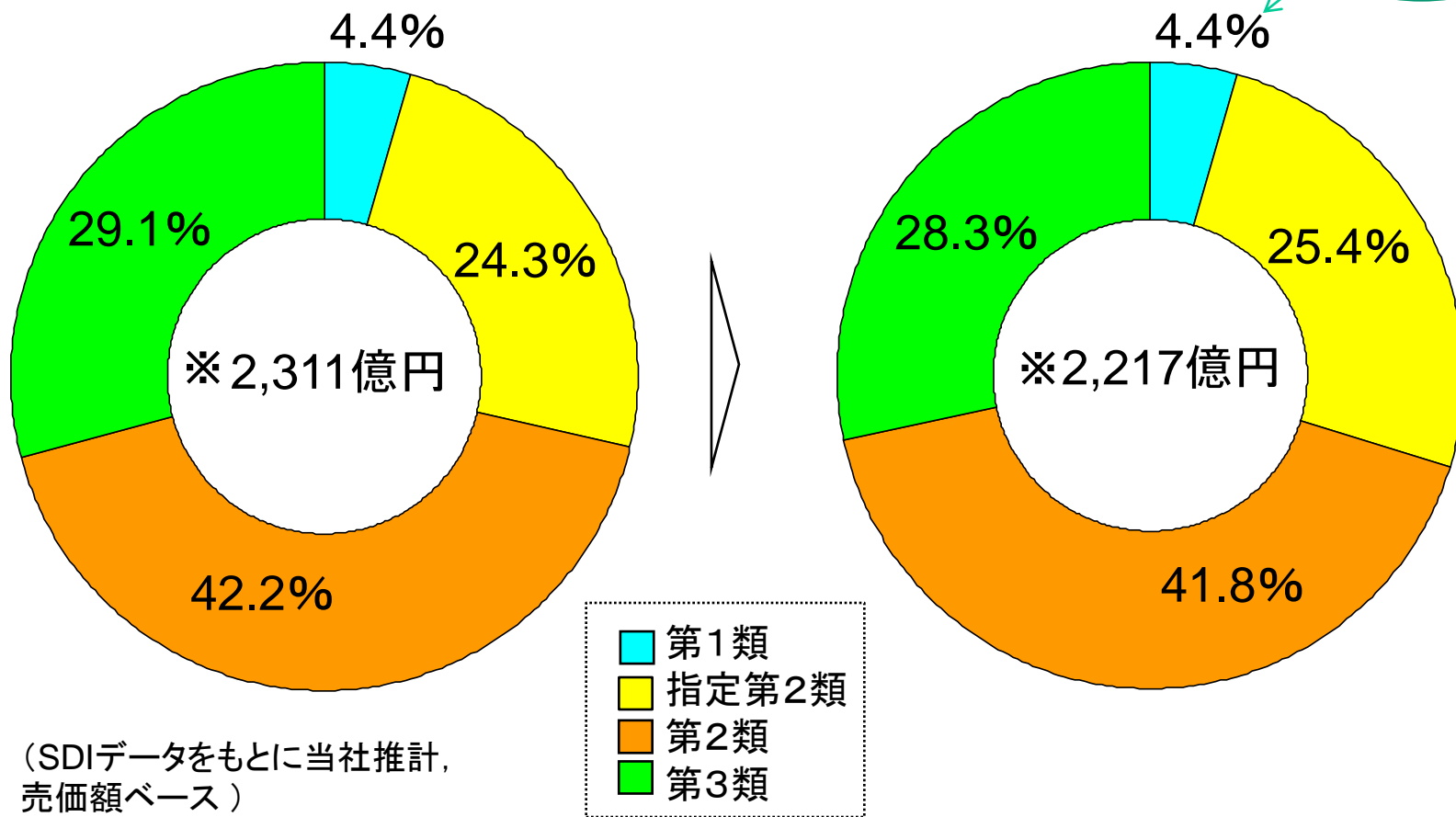
- OTC医薬品市場: 前年同期比 6%減  
花粉症関連がマイナス、予防関連は昨年の新型  
インフルエンザ流行の反動

# OTC医薬品分類別構成比



国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く  
(2009年度4～6月) (2010年度4～6月)

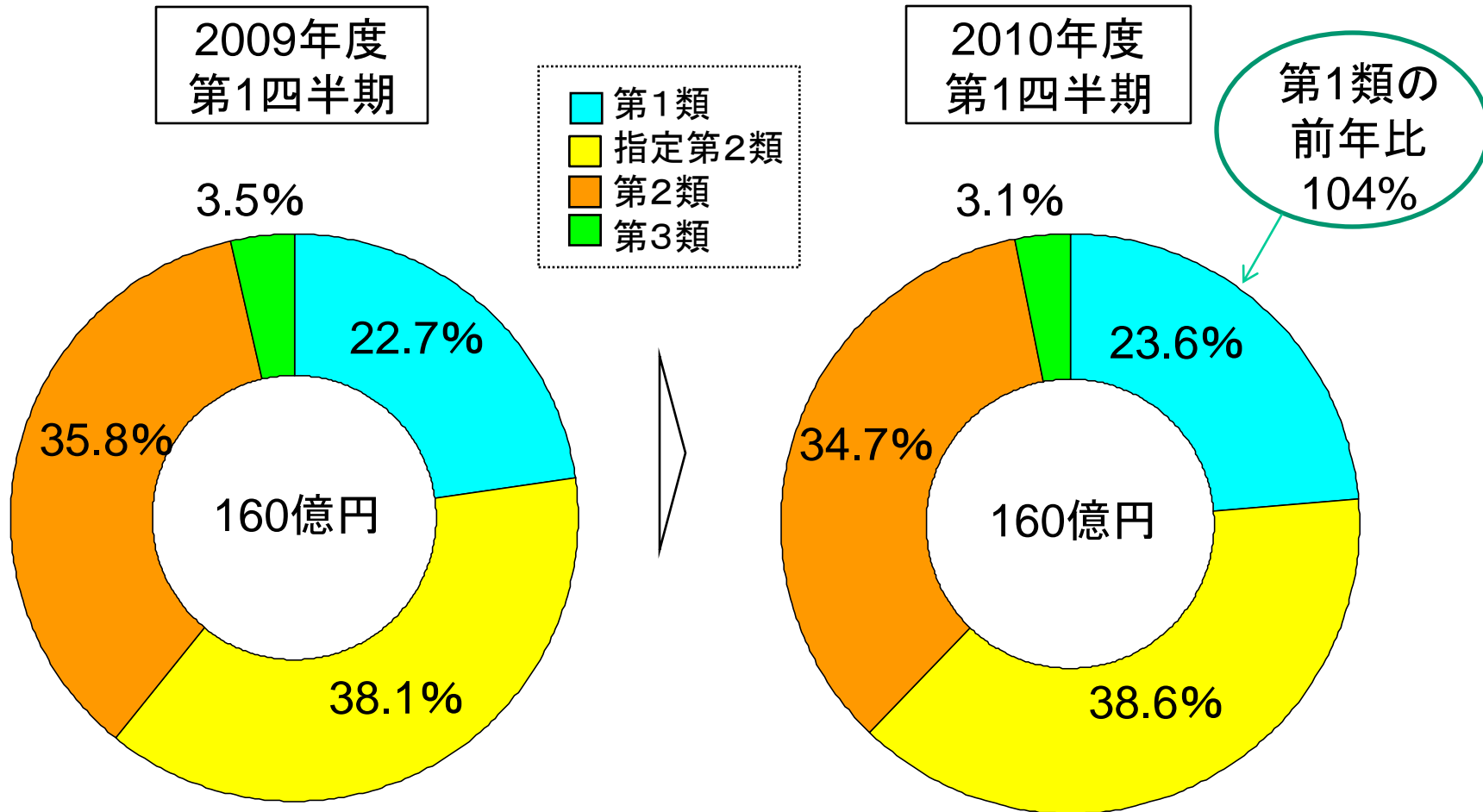
第1類の  
前年比  
97%



# 当社のOTC医薬品分類別売上構成比



- 第1類医薬品売上構成比はリアップX5等の寄与で引き続き上昇  
(22.7%→23.6%)



# アジアOTC事業について



- ・ 大正製薬インドネシア(旧BMSI)とシンガポールのアジアOTC事業統括会社が今年度より通年で寄与
- ・ 第1四半期は予定通りの進捗(売上高10億円、営業利益5億円)
- ・ 通期計画は変更ない
  - 売上高43億円、営業利益20億円  
のれん等償却20億円で  
営業利益ベースは収支トントン

# 2010年度第1四半期の概況(2)



## ・ 医薬事業

- 大正富山医薬品は経口抗菌薬、ゾシンが寄与、薬価改定の影響を吸収し、売上高は前年並み
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場\*シェアは16.2%に上昇  
(\*J01抗菌薬市場)

### <ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比1%増
  - ・ 当社の主力市場である抗菌薬市場は1%減  
(経口2%増、注射5%減)

# 2010年度1Q : 売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p><b>売上高</b> (+10億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業</b> (+14億円) (主な増減要因)</p> <p>国内OTC薬等 ▲3億円                  アジアOTC +10億円                  リビタシリーズ +2億円                  海外ドリンク剤 +3億円</p>	<p><b>医薬事業</b> (▲4億円) (主な増減要因)</p> <p>大正富山医薬品 横ばい                  中間製品等 ▲3億円                  ロイヤルティ収入 ▲1億円</p>
<p><b>営業利益</b> (+57億円)</p>	<p>売上総利益*: 横ばい                  (売上総利益率* 前年同期65.2%→当期64.3%)</p> <p>販管費: 56億円の減少</p> <p>内訳 研究開発費 ▲45億円      販促費 ▲7億円                  広告宣伝費 ▲11億円      人件費 ▲1億円                  その他 +7億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損失は0.5億円減少(前年同期9.94億円→当期9.43億円)</p>		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後



# 第2四半期以降の動向



## ・ セルフメディケーション事業

- 現時点ではほぼ計画通りの進捗、  
期初の方針に変更はない

(ご参考: 期初にお伝えした方針)

- ・ 主力ブランドの強化で収益を確保
- ・ 新規カテゴリー・新効能等の展開による  
セルフメディケーション市場拡大の取り組み

## ・ 医薬事業

- 順調に進捗しており、期初の見通しならびに  
方針に大きな変更はない

# 2010年度：通期業績予想



(億円)

	2Q累計 予想	前期比増減		通期 予想	前期比増減	
売上高	1,295	▲3	▲0%	2,620	+36	+1%
SMG*	844	+28	+3%	1,672	+83	+5%
医薬事業	451	▲30	▲6%	948	▲48	▲5%
営業利益	165	▲17	▲9%	360	+13	+4%
経常利益	180	▲9	▲5%	405	+38	+10%
当期純利益	105	+1	+1%	245	+50	+26%
EPS(円)	37.4	+1.2	+3%	87.2	+19.3	+28%
(参考)						
大正富山医薬品売上高	403	▲19	▲5%	835	▲29	▲3%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業

# 主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2010年度 1Q実績	対前年 増減額	2010年度 2Q累計予	対前年 増減額	2010年度 通期予	対前年 増減額
リポビタンシリーズ	185	▲0	405	+6	718	+10
パブロンシリーズ	46	▲1	98	▲8	250	+1
リアップシリーズ	37	+4	69	+5	135	+8
リビタシリーズ	9	+2	17	+3	35	+4
クラリス	54	▲0	95	▲6	220	▲13
パルクス	26	▲2	51	▲4	100	▲8
ゾシン*	34	+9	62	+11	120	+13
ジェニナック	10	▲6	20	▲7	50	+2
オゼックス*	10	+4	17	+5	30	+2

予=予想

注:数字は億円未満四捨五入

\*ゾシンの2Q累計予想は59億円から3億円引き上げ、オゼックスの2Q累計予想は13億円から4億円引き上げ  
(ただし、大正富山医薬品全体の売上高見通しは据え置き)

# セルフメディケーション事業：新製品



## <2010年度：主な新製品>

<p>&lt;第1四半期&gt; <b>デリトリーナ</b></p>	<p>&lt;下期&gt; 新規カテゴリー 生活習慣病 新効能</p>
<p>&lt;第2四半期&gt; リビタシリーズ ゼナシリーズ など</p>	<p>リポビタンシリーズ シガノンシリーズ など</p>

**赤文字**: 発売済みの製品

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



## 変更点その1：クラリス錠200適応追加の承認

国内

(2010年7月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
承認(2010年6月18日)			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗菌薬 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
申請中			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD <sub>3</sub> 誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬

\*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

\*\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

\*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

\*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2010年7月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2/3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



国内(続き)

(2010年7月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
TS-071 (経口)	<u>SGLT阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

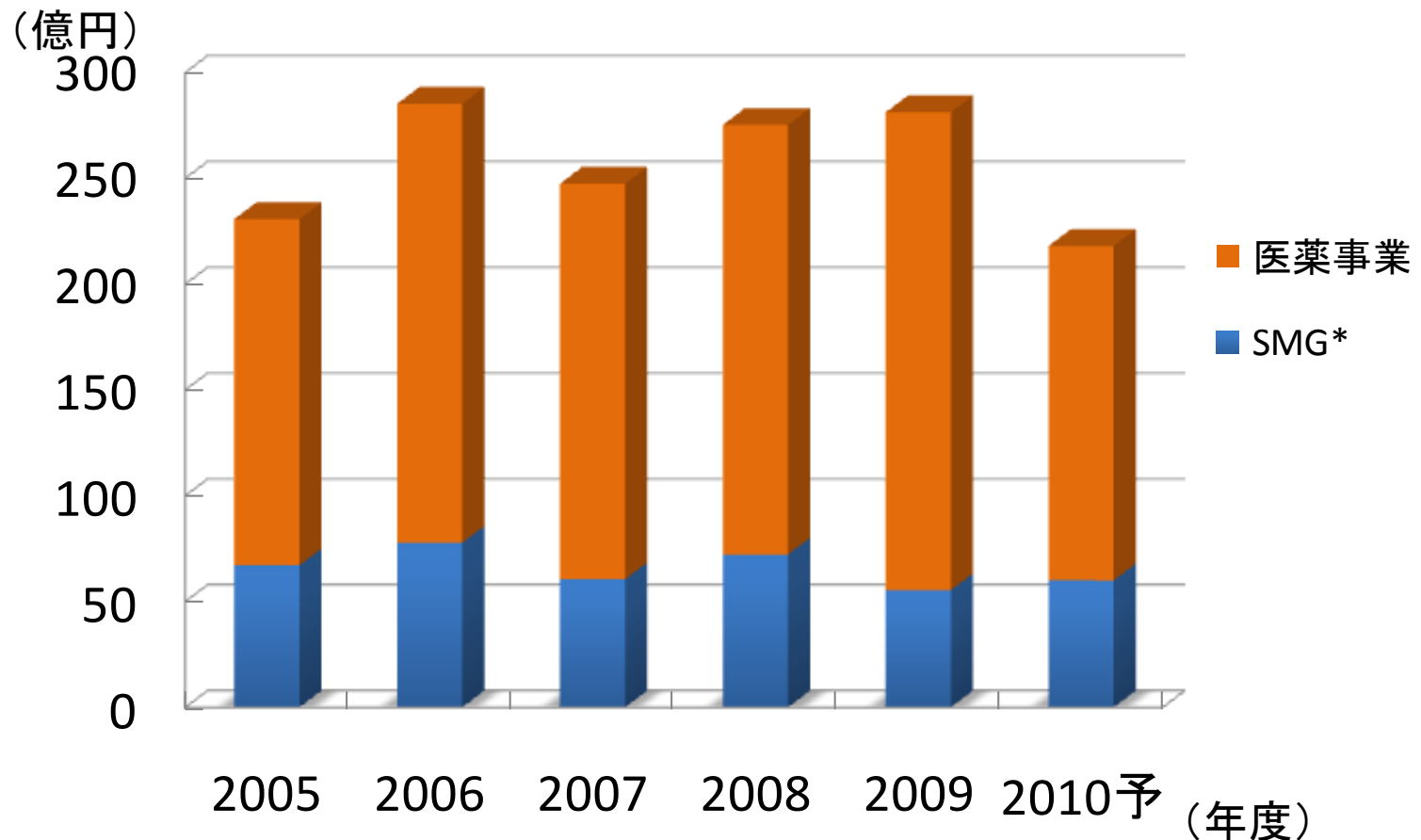
変更点その2：TS-022(国内外でフェーズ2)の開発中止  
(2010年7月30日発表)

TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
----------------	---------------------------------------	----	------

# 研究開発費の動向



第1四半期は47億円でほぼ計画通り  
通期予想(221億円)は変更なし



\* SMG:セルフメディケーション事業